

平成30年度 施策評価シート

| | | |
|-------|---|----------------------------------|
| 基本目標 | | 安心して暮らせる「すみだ」をつくる |
| 政策 | 460 | 安心して子育てができ、子ども・若者が夢や希望をもてるまちをつくる |
| 施策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる |
| 施策の目標 | 未来を担う大切な子ども・若者が、開かれた地域のなかでさまざまな人とつながり、人に対する思いやりの心を育みながら、輝く笑顔にあふれ健全に成長しています。 | |

1 基本計画における成果指標の状況

| | | | | | | | | | | |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|
| 指標名 | 「地域のなかで子どもたちが健やかに成長している」と思う区民の割合 | | | | | | | | | |
| | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| 目標 | | | | | 70.0 | | | | | 75.0 |
| 実績 | 67.8 | | | | | | | | | |
| 指標名 | 学童クラブの待機児童数 | | | | | | | | | |
| | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| 目標 | 139 | 129 | 33 | 0 | 0 | | | | | 0 |
| 実績 | 139 | 187 | 207 | | | | | | | |

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

| | | |
|--|------------|-----------|
| 指標の推移・施策の課題や問題点について記述 | 総事業費推移(千円) | |
| 学童クラブの定員拡充を図っているが、保護者の就労形態の変化等に伴う需要の高まりがあるため、待機児童が増加している。 また、児童館は、18歳未満の児童の健全育成の場であるとともに、地域子育て支援拠点として乳幼児親子も対象とした子育て支援の場と位置付けており、その役割が拡大してきている。 そのことから、引き続き、墨田区次世代育成支援行動計画に基づき、放課後子ども総合プランとの整合を図りながら、学童クラブ定員を拡充するとともに、児童館事業の改善・充実を図ることによって、子どもを健全に育成できる環境の充実を図る必要がある。 | H28 | 1,343,942 |
| | H29 | 1,490,031 |
| | H30 | 1,956,127 |

3 施策の評価及び判断理由

| | |
|----|--|
| 評価 | 理由 |
| B | 地域子育て支援拠点機能の強化など、一定の成果があるが、引き続き、学童クラブ待機児童が発生していることから、より効果的な取り組みが必要である。 |

4 今後の施策の運営方針

| | | |
|--|------|-------------------------|
| 一次評価 | 最終評価 | 施策の戦略的方向性 |
| | | (1) 優先的に資源投入を図る。 |
| | | (2) 現状維持とする。 |
| | | (3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。 |
| | | (4) 資源投入の縮小を図る。 |
| 【上記の判断理由】 | | |
| 学童クラブニーズはさらに高まることが予測されており、児童館は機能の拡充が求められている。 | | |
| 【今後の具体的な方針】 | | |
| : 墨田区次世代育成支援行動計画に基づく学童クラブ待機児童対策を推進するとともに、児童館のあり方検討報告を踏まえた児童館機能の充実を図っていく。 | | |

110
111
112
120
121
122
123
130
131
132
210
211
212
220
221
222
310
311
312
313
320
321
322
330
331
410
411
412
413
420
421
422
423
424
430
431
432
433
434
440
441
442
450
451
452
453
454
460
461

462
463
470
471
472
473
474
480
481
482
483
510
511
512
513
520
521
522
530
531
532
533
540
541
542

「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
安心して暮らせる「すみだ」をつくる
区民と区が協働で「すみだ」をつくる
伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
すみだの新しい文化・芸術を育てる
すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる
区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる
水と緑を活かした、美しい景観をつくる
地域ごとの特色を生かしたまちなみをつくる
水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる
多様な都市機能が調和したまちをつくる
職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める
多様な世帯に対応した、魅力的な住環境を形成する
区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつく
主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する
安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する
新しい価値を創造し、産業の進化・発展を図る
グローバルに活躍できる人材を育て、技術・技能を継承・発展させる
新規参入・異分野との連携・融合を促進し、次代のものづくりを育む
「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする
こだわりをもった魅力ある商業・サービス業の集積を進める
消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める
地域の資源を活かした、特色ある商業空間を創出する
誰もが輝きをもって働けるしくみをつくる
誰もが能力を発揮できるよう就労支援を展開する
災害や犯罪から身を守る、安全・安心なまちとしくみをつくる
災害に強い安全なまちづくりを進める
地域で連携し、さまざまな災害に対する防災行動力を高める
地域で連携し、犯罪抑止力・対応力を高める
地域で支えあい、誰もが安心して暮らせるしくみをつくる
福祉に対する理解を深め、地域活動への参加を促す
利用者のニーズにあった地域福祉サービスの質と量の向上を図る
生活に困った人を支え、自立を促す
消費者の自立を支援し、安心・安全な消費生活を守る
高齢者が生きがいをもって暮らせるしくみをつくる
元気で生きがいに満ちた高齢期の暮らしを支援する
高齢者の自立した生活を支援する
高齢者の地域包括ケアを進める
高齢者が安心して地域で暮らし続ける環境をつくる
障害者が地域のなかで輝いて生きるしくみをつくる
障害者の自立した生活を支援する
障害者の社会参加を支援し、生きがいを創出する
健康寿命を大きく伸ばし、誰もが健康に暮らすまちをつくる
区民みずから健康に暮らせるしくみをつくる
すべての親と子の切れ目ない健康づくりを支援する
保健衛生における安全と安心を確保する
地域の連携を深め、保健医療体制を確立する
安心して子育てができ、子ども・若者が夢や希望をもてるまちをつくる
必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる

地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる
支援が必要な子ども・若者が安心して暮らせるしくみをつくる
子どもたちに知・徳・体のバランスのとれた教育を行う
意欲をもって学び、協働的に課題解決できる確かな学力を育む
子どもの個性を活かし、健やかな心とからだを育てる
地域に開かれた魅力ある学校環境をつくる
家庭の教育力向上と、地域で子どもを育てるしくみをつくる
未来に引き継ぐ、環境にやさしいまちをつくる
地域にやさしい、環境に配慮した暮らしをともにつくる
環境の保全や改善に努める
廃棄物を減量し、循環型社会を実現する
コミュニティの輪を広げ、協働によるまちをつくる
地域や多様なコミュニティを支える人材・団体を育てる
地域や多様なコミュニティを育む場や機会を増やす
地域コミュニティのなかで、外国人にとっても暮らしやすい環境をつくる
生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる
区民が自由にスポーツを楽しむ機会をつくる
世界の平和を願い、人権を尊重するまちをつくる
人権教育・啓発を進める
男女共同参画を推進する
国際理解を深め、平和への意識を高める
多様な主体が参加する区政のしくみをつくる
情報を戦略的に発信し、多様な主体と共有する
区政への参加を広め、公正・公平で効率的な行財政運営を推進する

すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来区民がいつでも身近に文化・芸術にふれ、活動できる環境となっているとともに、多くの担い手が

さまざまな媒体からすみだの魅力が発信され、これまで以上に国内外から多くの人々が「国際観区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プロ来街者をやさしく迎えることで、誰もが安全に、安心して区内回遊を楽しめる「おもてなし」のまち

地域ごとに、区民が愛着を感じることができる個性と風格のあるまちなみが広がり、区外からもその魅力的な水辺空間や緑豊かな公園が、区民や来街者にうおいとやすらぎをもたらし、にぎわう

多様な都市機能が調和したまちとなるため、職・住・学・遊の調和する総合的・計画的な土地利用子育て世帯や高齢者世帯等の多様な世帯が、ライフスタイルに応じた住まいの水準や住み替え

主要駅周辺は、便利でにぎわいのあるまちになり、多くの来街者が訪れています。また、生活拠、鉄道立体化による踏切事故防止や渋滞解消、また、道路のバリアフリー化等により、誰もが安全

事業意欲の高い区内事業者がいっそう増加し、それぞれが自社の発展に努めています。また、すみだの産業に魅力を感じた人材等が集まり、新しい事業が起こるとともに、区内事業者とさまざまなすみだのものづくり企業が、技術やデザイン等、クオリティの高さをもって付加価値の高い商品を

消費者のニーズに的確に対応するとともに、新たな提案を行うことができ、利用者が「何度も行き活気にあふれた商業空間で区民や観光客が快適に楽しんでいる一方で、買物弱者へのきめ細

就労に向けたさまざまな支援策が整っており、区民が個々の能力を発揮しながら輝きをもって働

建築物の不燃化や耐震化をはじめとして、木造密集市街地の改善が進み、地震、火災や水害など区民、住民防災組織、地域団体、企業等の多様な地域の主体が、自発的な意思と相互の連携により、区民と区内事業者が連携した地域の力でさまざまな防犯対策に取り組むことにより、犯罪が未然

多くの区民が地域福祉について理解し、地域福祉の理念や活動が区民に知られ、さまざまな福祉サービスが必要とする区民の権利が守られ、適切なサービスを受けることができ、子どもが経済的に困窮した人を支えるためのさまざまな制度がセーフティネットとして有効に機能し、それ消費者問題や暮らしに関する必要な情報を容易に入手できる環境が整備されることで、区民一

高齢期を迎えた区民が、地域活動や趣味、特技を活かしたボランティア活動等を通じて社会参加高齢者が住みなれた地域で年齢や心身の状況によって分け隔てなく安心した生活を送り、自助・区民、民生委員、介護相談員、町会・自治会等の関係団体、地域の医療、福祉、警察、消防等の介護が必要な状態になっても、居宅での介護保険サービス等の利用や地域の小規模・多機能サ

障害のある人が日常生活に必要な福祉サービスを利用しながら、障害のない人と分け隔てなく、障害のある人がそれぞれの希望に沿って社会に参加し、社会の一員としての役割を担い、働き

区民が健康の価値を認識し、健康診断等で健康状態を把握し、生活習慣病の発病予防・早期発すべての親と子が妊娠中から出産後まで切れ目ない母子保健サービスを受けることで、区民が健康危機管理体制が充実し、適切な情報の共有が行われることで、感染症や食品、医薬品、飲地域の医療体制の充実、医療と介護の適切な連携により、さまざまな健康課題に対して切れ目

すべての子育て家庭が必要な子育て支援サービスを利用し、孤立することなく、安心して心豊か

未来を担う大切な子ども・若者が、開かれた地域のなかでさまざまな人とつながり、人に対する思慮の発生を予防するための支援の強化、関係機関による支援体制の確立など、まち全体での

学校・地域・家庭が連携・協力して、児童・生徒みずからが意欲的に学習できるよう、適切な授業一人ひとりの子どもが、自分の個性をいかんなく発揮し、心身ともに健全な状態で生活を送っている区立学校が、子どもたちにとって安全・安心で、いきいきと学ぶことができる集団生活の場である学校・家庭・地域が連携し、地域全体で子どもと家庭を見守り、育てています。子どもたちは、家庭

区民・事業者に省資源・省エネルギー行動が定着し、創エネルギーや蓄エネルギー設備の導入、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭等の問題が解消され、すべての区民のゴミの減量やリサイクルについて、区民・事業者の意識と理解が深まり、ゴミの発生抑制を基本

若者から高齢者までの多くの区民が、町会・自治会をはじめ多様な主体の活動に参加し、地域の地域や多様なコミュニティの活動の拠点が、地域住民の協力のもとに運営され、協働の場や機会をすべての区民が、異なる文化や生活習慣、価値観等を認めあい、ともに地域の課題解決にも積極

区民が、趣味や教養、文化活動など、さまざまな生涯学習活動に主体的に取り組み、生きがいの子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、スポーツを通

区民や区内の事業者が人権に対しての知識や意識を高め、人権尊重の考え方が浸透した社会女性と男性が互いにその人権を尊重し、責任を分かちあい、性別に関わりなく、仕事、家庭、地域をすべての区民が世界平和の大切さを理解し、国際交流の重要性を認識するとともに、さまざまな

区民やすみだに関わる人に、まちへの愛着が育まれ、すみだでの暮らしや活動に誇りをもっている区民や事業者は、協治(ガバナンス)によるまちづくりの主体として積極的に区政に参画し、地域の

来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。
すみだで育ち、集い、幅広い分野での新しいすみだの文化・芸術が創造されています。

「光都市すみだ」にあこがれ、訪れています。
プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。
となるとともに、区民と来街者のさまざまな交流が生まれる「国際観光都市」となっています。

美しいまちなみを楽しむために多くの人々が訪れています。
とともに、まちの至るところに緑が増え、水と緑を親しむまちになっています。

目が進み、地域の特性に応じたまちづくりのルールが確立することで、誰もが快適に活動をしていま
に満足し、良質な住宅で安全に安心して住み続けられる快適な住環境のなかで暮らしています。

点では日常生活に必要な施設が身近に整い、誰もが安心して便利に暮らしています。
安心して快適に暮らせる交通環境が整備されています。

すみだの産業をけん引する人材が多くあられているだけでなく、すみだのものづくりの技術・技能
さまざまな分野の人材の交流が促進されることで、次代のすみだを担う産業が育まれています。
生みだし、その商品をさまざまな手法でプロモーションすることにより、国内外に広く販路が拡大し

「いたい」と思うような魅力的な個店が集積し、多くの消費者が訪れ、買い物や飲食、サービスを楽し
かな対応等、商店街や個店が地域とのつながりをより深めています。

いています。

どの災害に強く安全なまちが形成されており、区民が安心して暮らしています。
こより、個々の事情と地域の特性をとらえた防災対策を講じ、さまざまな災害から身を守る防災行動
然に抑止され、すべての人が安全で安心な暮らしをしています。

ラットフォーム により地域の福祉課題の解決が図られ、地域で暮らす住民同士の支えあい、助け
ら高齢者まで、障害のある人もない人も、区民の誰もが自分らしく、住みなれた地域で安心して暮ら
それぞれの状況に応じた適切な支援が行われることで、すべての区民が自立し安定した暮らしをしてい
人ひとりが正しい知識をもって主体的に行動できる消費者になるとともに、地域での支えあいによっ

日し、生きがいをもち、充実感のあるセカンドライフを過ごしています。
や互助の考えのもとに、みずから支援の受け手や担い手になることで、つながりあった地域づくりか
関係機関、サービス事業者等が基盤となる地域包括支援ネットワークが一体的に構築され、高齢
サービス拠点の活用、施設入所に至る過程を通じて、住みなれた地域のなかで、高齢者が安心して

住みなれた「すみだ」で地域社会の一員として、安心して暮らしています。
がいや生きがいを感じながら、楽しくいきいきと日常生活を送っています。

見・早期治療に努めています。また、栄養・運動・休養のバランスのとれた望ましい生活習慣をこ
安心して子どもを産み、ゆとりをもって健やかに子育てしています。
料水、化学物質、ペット等の動物に起因する健康被害にあうことなく、すべての区民が安全な生活
のない支援が行われ、適切な医療と保健・介護サービスが提供されることで、すべての区民が住み

な子育てに取り組んでいます。

思いやりの心を育みながら、輝く笑顔にあふれ健全に成長しています。
虐待防止の環境が整っています。また、困難を抱えた子どもと家庭への支援体制が充実すること

指導、放課後等の学習環境・家庭環境が整備され、子どもたちは確かな学力を身につけています。
います。

とともに、地域住民にとってもさまざまな交流の拠点となっています。
庭教育や地域の人々との交流、さまざまな体験活動を通して、豊かな人間性や社会性を身につけ

も進んで、温室効果ガスの排出を抑制したスマートエネルギーのまちとなっています。また、区民・
区民が良好な生活環境のなかで、快適に暮らしています。
とした生活習慣が定着しています。

り課題解決に向けみずから話しあい、行動する自律型地域社会の一員として、区民や団体、企業な
会が充実し、交流が盛んになっています。

極的に取り組むなど、外国人にとっても暮らしやすいまちになっています。

りある生活を送っています。また、区民の間に生涯学習の輪が広がり、自身が習得した学習成果を
重じた仲間づくりや、地域での交流が行われています。

となっています。

或のあらゆる分野で参画する機会が確保され、個性と能力を發揮できる社会となっています。

：国の各都市との間で、文化、教育、スポーツ等の幅広い分野にわたって、友好交流を深めていま

います。さらに、すみだを愛する人がシティプロモーションの担い手となって情報発信し、「すみだの魅
り課題解決に取り組んでいます。区は、新たな課題に対応するため行政のスリム化並びに「選択と

です。

等がさまざまな形で継承されていることで、区内産業の活性化がさらに進んでいます。

ています。また、国内外からすみだを訪れた人々が、ものづくり体験や買い物を楽しんでいます。

んでいます。

力を身につけ、安全・安心なまちになっています。

あい活動が積極的に行われています。

らしています。基本目標 安心して暮らせる「すみだ」をつくる 良質な福祉サービスの安定的な提供
います。

いて、誰も消費者被害にあうことのない、安心・安全な消費生活を送っています。

が進められています。

期を迎えた区民が、認知症や疾病を抱えていても、在宅で療養しながら、住みなれた地域で安心
暮らし続けています。

るがけ、区民一人ひとりが健康づくりに取り組んでいます。

環境で暮らしています。

なれた地域で安心して暮らしています。

で、次代を担う子ども・若者たちが、安心して健やかに成長しています。

。

ています。

事業者・区が協働して、環境にやさしいまちを実現するために環境保全活動に取り組んでいます。

ほどと区が協働する、「地域力日本一」のまちになっています。

：地域活動に活かしています。

す。

速力」に共感が生まれています。

集中」により、一層の効率的な行財政運営を進めています。

給確保を図るため、事業者に対して福祉サービス第三者評価の受審を促進してきました。また、

して暮らし続けています。

⑤ 民の参加と協力による、高齢者や障害者などの日常生活を支えるきめ細かな福祉サービスを提

供するとともに、市民後見人の養成に取り組み、これまでに延べ25人の方々が、認知症高齢者等

り財産管理や身上監護などの支援を行っています。成年後見制度の利用や権利擁護相談におい

ても、認知症高齢者や障害者などの利用が増えています。 今後増加が見込まれる認知症高齢者

、ひとり暮らしの高齢者等の権利を守るしくみがますます重要になってきます。区民が安心して福祉

止サービスを利用するための支援を進め、成年後見制度や権利擁護に関する相談窓口を広く周知

するとともに、判断能力が十分でない方やその家族に寄り添った相談支援体制を充実させることか

が重要です。また、費用負担能力や身寄りのない人に対する成年後見制度の利用支援事業につい

いて、関係機関とも連携して利用促進に取り組み、区民の誰もが住みなれた地域で安心して暮らせ

るような地域社会を築いていくことが強く求められています。現状とこれまでの取り組み 今後

平成30年度 事務事業評価シート

| | | | | | | | | |
|--|--|--------------------------|--------------------|-----------------------------------|----------------|--------------|-----------|----------|
| 施策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる | 部内優先順位 | | | | | |
| 事務事業 | 民間委託分学童クラブ費 | | | | | 2 | | |
| 事業概要 | 保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業終了後や休暇に適切な遊びや生活の場を与えて、児童の健全な育成を図る。 | | | | | 主管課・係(担当) | | |
| | | | | | | 子育て政策課児童館担当 | | |
| | | | | | | 03-5608-6195 | | |
| 施策への関連性 | 保護者の労働等により、昼間家庭で適切な育成を受けられない児童に、健全育成の環境を整える。 | | | | | | | |
| 必要性・妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | |
| | 対象者人口に対する申込率が増加しており、放課後等における児童の安全・安心な預け場所・健全育成環境のニーズは高まっている。 | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況(区が実施する必要性等) | | | | | | | |
| | 児童の安全な居場所の確保と健全育成を目的とした委託事業であり、区が実施する必要性は高い。 | | | | | | | |
| 有効性・適格性 | 手段に対する指標(活動指標) | 指標 | 公立学童クラブ定員数 | | | | 単位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 1,765 | 32 | 目標 実績 | 1,515 1,565 | 1,615 | 1,690 | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| | | 目標 実績 | 1,765 | | | | | |
| | | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | |
| | 対象者人口及び申込率を基に推計した必要定員数を指標とする。 | | | | | | | |
| | 目的に対する指標(成果指標) | 指標 | 学童クラブの待機児童数 | | | | 単位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 0 | 32 | 目標 実績 | 139 187 | 33 | 0 | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| | | 目標 実績 | 0 | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | |
| 財政面〔決算額〕(単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | |
| | 560,401 | 601,491 | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕学童クラブ定員の増に伴い、増額する傾向が見込まれる。 | | | | |
| | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|---|-------------------|------------|------------|------|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | |
| 代替可能性の有無 | 不十分 | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所・健全育成環境のニーズは高まっている。 | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 |
| 保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに適切な遊び及び生活の場を整える必要がある。 | | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 3 効率性・経済性 | | 改善・見直しの上継続 | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ない | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ない | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 児童の安全安心かつ健全育成を図る場所として、学童クラブに代わる施設はない状況である。 | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 児童の安全な居場所を確保し、保護者の就労を支援するため、有効な事業であることから、引き続き適正に運用する。 | | | | |
| 今後の方向性 | ニーズの増加が想定されることから、定員拡大を図っていく。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|--------------------------|-------------|--------------------------------|-----|-----|--------------------------|--------|
| 施 策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる | | | | | | 部内優先順位 |
| 事務事業 | 新設学童クラブ設置等経費 | | | | | | 3 | |
| 事業概要 | 学童クラブがない小学校区域又は待機児童が発生している地域に学童クラブを開設することで、学童クラブの待機児童の解消を図る。 | | | | | | 主管課・係(担当) | |
| | | | | | | | 子育て政策課児童館担当 5608-6195 | |
| 施策への 関連性 | 学童クラブを開設することで、必要な児童のための健全育成環境が整備されるとともに、安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境づくりにつながる。 | | | | | | | |
| 必要性・ 妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | |
| | 対象者人口に対する申込率が増加しており、放課後等における児童の安全・安心な預け場所・健全育成環境のニーズは高まっている。 | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況(区が実施する必要性等) | | | | | | | |
| | 民間が設置することも可能だが、育成料が高くなる等の課題があるため、区が設置するのが望ましい。 | | | | | | | |
| 有効性・ 適格性 | 手 段 に 対する指標 (活動指標) | 指 標 | 新設学童クラブ定員数 | | | | 単 位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 250 | 32 | 目標 | 50 | 50 | 50 | 75 |
| | | | | 実績 | 50 | 50 | | |
| | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | 目標 | 75 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | |
| | 対象者人口及び申込率を基に推計した必要定員数を確保するための拡大数を指標とする。 | | | | | | | |
| | 目 的 に 対する指標 (成果指標) | 指 標 | 学童クラブの待機児童数 | | | | 単 位 | 人 |
| 最終目標値 | | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | | |
| 0 | | 32 | 目標 | 139 | 129 | 33 | 0 | |
| | | | 実績 | 139 | 187 | | | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| 目標 | | 0 | | | | | | |
| | 実績 | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | |
| 財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | |
| | 30,518 | 2,959 | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕事業を実施する施設によって、予算額が増額する。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|---|------------|------------|------|--|--|--|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | | | | |
| 代替可能性の有無 | 不十分 | | | | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | ある | | | | | | | |
| 判断理由 | | | | | | | | |
| 学童クラブの待機児童が出ていることから、新規開設は必要性が高い。 | | | | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 | | | |
| 保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに適切な遊び及び生活の場を整える必要がある。 | | 5 | 4 | 5 | 4 | | | |
| 3 効率性・経済性 | | <p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p> | | | | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ない | | | | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ない | | | | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | | | | |
| 判断理由 | | | | | | | | |
| 待機児童の状況等に応じた効果的な整備のため、民間賃貸物件も活用している。 | | | | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 保護者の就労形態の変化から、学童クラブにおけるニーズは高まっており、新設学童クラブの開設の必要性は高い。 | | | | | | | |
| 今後の方向性 | 公共施設や民間賃貸物件の活用による効率的な整備により、待機児童の解消を図る。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--------------------------|--------------------|----------------|----------|-------------|--------|-----|
| 施 策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる | | | | | 部内優先順位 | |
| 事務事業 | 放課後子ども総合プラン推進事業 | | | | | 6 | | |
| 事業概要 | 緑小学校において実施している放課後子ども教室と連携し、子どもたちの放課後の居場所づくりを行い、学童クラブの待機児童の解消を図る。 | | | | | 主管課・係(担当) | | |
| | | | | | | 子育て政策課児童館担当 | | |
| | 5608-6195 | | | | | | | |
| 施策への 関 連 性 | 地域と連携して、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所を確保することができる。 | | | | | | | |
| 必要性・ 妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | |
| | 就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所・健全育成環境のニーズは高まっている。 | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況(区が実施する必要性等) | | | | | | | |
| | 学校内において、放課後子ども教室と児童館事業が連携するものであることから、代替性は低い。一方、「放課後子ども総合プラン」により、放課後子ども教室と学童クラブの一体型の整備が求められている。 | | | | | | | |
| 有効性・ 適格性 | 手 段 に 対する指標 (活動指標) | 指 標 | フレンズみどり(緑小学校内)の定員数 | | | | 単 位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 |
| | | 40 | 32 | 目標 | 40 | 40 | | |
| | | | | 実績 | 40 | 40 | | |
| | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | 目標 | | | | | | |
| | 実績 | | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | |
| | 緑小学校の教室を活用していることから、最大定員数を指標とする。 | | | | | | | |
| | 目 的 に 対する指標 (成果指標) | 指 標 | 学童クラブの待機児童数 | | | | 単 位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 |
| | | 0 | 32 | 目標 | 139 | 129 | 33 | 0 |
| | | | 実績 | 139 | 187 | | | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| 目標 | | 0 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | |
| 財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | |
| | 11,770 | 11,770 | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕横ばいである。 | | | | |
| | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|---|-------------------|------------|------------|------|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | |
| 代替可能性の有無 | ない | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 学校内に学童クラブの設置場所が無いため、放課後子ども教室の場所を活用して事業を実施することは不可欠である。 | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 |
| 学校内に学童クラブの設置場所が無いため、放課後子ども教室の場所を活用して事業を実施することは不可欠である。 | | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 3 効率性・経済性 | | 改善・見直しの上継続 | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ない | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ない | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 放課後子ども教室と連携することで、地域やPTAとの交流が図られている。 | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 保護者の就労形態の変化などにより、学童クラブのニーズは高まっており、地域と連携した運営による事業効果も大きいことから効果的な事業である。 | | | | |
| 今後の方向性 | 国の「放課後子ども総合プラン」においても「平成31年度末までに全ての小学校区で、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を実施」と定められていることから、引き続き、教育委員会と連携していく。 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|--|-----------------------------|--------------------------|--|-----|-----|--------------------------|--------|-----|
| 施 策 | 461 | 必要な子育て支援サービスを適切に利用できる環境をつくる | | | | | | 部内優先順位 | |
| 事務事業 | 保育園改築事業（学童クラブ部分） | | | | | | 7 | | |
| 事業概要 | 老朽化した亀沢保育園の改築に伴い、学童クラブを併設し学童定員を増員することにより、学童クラブ待機児童解消の促進を目指す。 | | | | | | 主管課・係（担当） | | |
| | | | | | | | 子育て政策課児童館担当 5608-6195 | | |
| 施策への 関 連 性 | 保育園と学童クラブの複合施設の建設により、児童の健全育成環境及び安心して働くための子育て支援サービスを利用できる環境整備につながる。 | | | | | | | | |
| 必要性・ 妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | | |
| | 待機児童が多く出ている地域において子どもを預ける場所が求められている。 | | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況（区が実施する必要性等） | | | | | | | | |
| | 民間が設置することも可能だが、育成料が高くなる等の課題があるため、区が設置するのが望ましい。 | | | | | | | | |
| 有効性・ 適格性 | 手 段 に 対する指標 (活動指標) | 指 標 | 学童クラブの定員数（（仮称）亀沢学童クラブ分室） | | | | 単 位 | 人 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | | H29 | H30 | H31 | |
| | | 80 | 30 | 目 標 | 0 | 0 | 80 | 0 | |
| | | | | 実 績 | 0 | 0 | 80 | | |
| | | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | 目 標 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 実 績 | | | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| | 本施設の建設により、学童クラブの定員が確保されることから、定員数を指標とする。 | | | | | | | | |
| | 目 的 に 対する指標 (成果指標) | 指 標 | 学童クラブの待機児童数 | | | | 単 位 | 人 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | | H29 | H30 | H31 | |
| | | 0 | 32 | 目 標 | 139 | 129 | 33 | 0 | |
| 実 績 | | | | 139 | 187 | | | | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | | |
| 目 標 | | 0 | | | | | | | |
| 実 績 | | | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | | |
| 財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | | |
| | 84,640 | 127,986 | | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕平成30年度竣工後、学童クラブの運営における委託費を計上する。 | | | | | |
| | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|---|------------|------------|------|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | |
| 代替可能性の有無 | 不十分 | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 平成29年4月現在、外手児童館周辺の待機児童数は28人であることから、学童クラブを新規に設置する必要がある。 | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 |
| 保護者の就労等による共働きが増えてきていることにより、保護者不在の時間に子どもに安全な居場所を確保するうえで、本事業は施策に合致している。 | | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 3 効率性・経済性 | | <p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p> | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ない | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ない | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 待機児童の状況に応じた効果的な整備として、保育施設との合築は効率的である。 | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 保護者の就労形態の変化から、学童クラブのニーズは高まっており、新設学童クラブ開設の必要性は高い。 | | | | |
| 今後の方向性 | 保育施設と学童クラブの併設であることから、効率的な運用を図っていく。 | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|--------------------------|------------|----------------|-----|--------------|--------|-----|
| 施 策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる | | | | | 部内優先順位 | |
| 事務事業 | 私立学童クラブへの助成 | | | | | 8 | | |
| 事業概要 | 私立学童クラブに対し、運営に係る経費の一部を補助する。 | | | | | 主管課・係(担当) | | |
| | | | | | | 子育て政策課児童館担当 | | |
| | | | | | | 03-5608-6195 | | |
| 施策への 関 連 性 | 学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童を健全に育成できる環境を整える。 | | | | | | | |
| 必要性・ 妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | |
| | 就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。 | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況(区が実施する必要性等) | | | | | | | |
| | 待機児童が出ている現状において、民間が運営する私立学童クラブは、必要不可欠であり、区として助成する必要がある。 | | | | | | | |
| 有効性・ 適格性 | 手 段 に 対する指標 (活動指標) | 指 標 | 私立学童クラブ定員数 | | | | 単 位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 205 | 32 | 目標 | 205 | 205 | 205 | |
| | | | | 実績 | 205 | 205 | | |
| | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | 目標 | 205 | 205 | 205 | 205 | 205 | 205 |
| | 実績 | | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | |
| | 学童クラブの待機児童解消に寄与する定員数を指標とする。 | | | | | | | |
| | 目 的 に 対する指標 (成果指標) | 指 標 | 学童クラブ待機児童数 | | | | 単 位 | 人 |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 0 | 32 | 目標 | 139 | 129 | 33 | 0 |
| | | | 実績 | 139 | 187 | | | |
| | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| 目標 | | 0 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | |
| 財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | |
| | 23,744 | 22,010 | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕横ばいである。 | | | | |
| | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--|---|-------------------|------------|------------|------|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | |
| 代替可能性の有無 | ない | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 私立学童クラブは、学童クラブの待機児童解消の一役を担っていることから、その運営補助は妥当である。 | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 |
| 学童クラブの待機児童解消における貢献度は高く、また平日育成のほか長期休暇のみの育成等独自の事業を行っていて、施策に合致している。 | | 5 | 4 | 5 | 4 |
| 3 効率性・経済性 | | 改善・見直しの上継続 | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ない | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ない | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 学童クラブの待機児童がいることから、民間で実施する事業への補助は効率的である。 | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。 | | | | |
| 今後の方向性 | 引き続き補助していく。 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---|-------|------------|----------------|----------|-----|--------------|-----|-----|
| 補助金名称 | 私立学童クラブへの助成 | | | | | | 主管課・係（担当） | | |
| 根拠法令 | 墨田区私立学童クラブ事業補助要綱 | | | | | | 子育て政策課児童館担当 | | |
| 事業概要 | 私立学童クラブに対し、運営に係る経費の一部を補助する。 | | | | | | 03-5608-6195 | | |
| | | | | | | | 事業の終期 | | |
| 必要性・妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | | |
| | 就労形態の変化からも、放課後等における児童の安全・安心な預け場所のニーズは高まっている。 | | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況（区が実施する必要性等） | | | | | | | | |
| | 待機児童が出ている現状において、民間が運営する私立学童クラブは、必要不可欠であり、区として助成する必要がある。 | | | | | | | | |
| 有効性・適格性 | 手段に対する指標 (活動指標) | 指標 | 私立学童クラブ定員数 | | | | 単位 | 人 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 205 | 37 | | 目標 | 205 | 205 | 205 | 205 |
| | | | | | 実績 | 205 | 205 | | |
| | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| | | 目標 | 205 | 205 | 205 | 205 | 205 | 205 | |
| | | 実績 | | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| | 学童クラブの待機児童解消に寄与する定員数を指標とする。 | | | | | | | | |
| | 目的に対する指標 (成果指標) | 指標 | 学童クラブ待機児童数 | | | | 単位 | 人 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | 0 | 32 | | 目標 | 139 | 129 | 33 | 0 |
| | | | | | 実績 | 139 | 187 | | |
| | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 | |
| 目標 | | 0 | | | | | | | |
| 実績 | | | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | | |
| 必要な児童のための育成環境が整備されていることを目標とすることから、待機児童数を指標とする。 | | | | | | | | | |
| 財政面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | | |
| | 23,744 | 22010 | | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕横ばいである。 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 施策への関連性 | 学童クラブの待機児童の解消を図るとともに、児童を健全に育成できる環境を整える。 | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|---|------------------------------|--------|--|
| 1 必要性・妥当性 | | | 5 | |
| 区が実施する理由があるか | ある | 目的が政策上の位置付けと整合しているか | している | |
| 目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか | している | 不特定多数の利益の増進に寄与するか | している | |
| 区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか | 認められる | 個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか | する | |
| 区の施策目標の実現に寄与しているか | している | | | |
| 判断理由 | | | | |
| 私立学童クラブは、学童クラブの待機児童解消の一役を担っていることから、その運営補助は妥当である。 | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | 4 | |
| 経費、補助額の算定根拠が明確になっているか | なっている | 交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか | されている | |
| 区が負担する割合として適切か | 適切である | 補助団体の活動内容が目的と合致しているか | 合致している | |
| 任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか | ある | 補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか | ある | |
| 補助目的が既に達成されていないか | されている | 目標及び見込まれる効果が明確か | 明確 | |
| 団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか | なっている | 効果測定の具体的な目標・指標が明確か | 明確 | |
| 判断理由 | | | | |
| 学童クラブの待機児童解消における貢献度は高く、また平日育成のほか長期休暇のみの育成等独自の事業を行っていて、施策に合致している。 | | | | |
| 3 効率性・経済性 | | | 5 | |
| 類似する補助事業がないか | ない | 地域社会や区民等へ波及効果があるか | ある | |
| 手続が過度に煩雑でないか | 煩雑ではない | 個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか | している | |
| 目的に対する区の負担割合が適切か | 適切である | | | |
| 判断理由 | | | | |
| 学童クラブの待機児童がいることから、民間で実施する事業への補助は効率的である。 | | | | |
| 【評価結果】 | | | | |
| 改善・見直し | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 学童クラブの待機児童解消のほか、児童の安全・安心な居場所の確保のために、本補助は必要不可欠である。 | | | |
| 今後の方 向 性 | 引き続き補助していく。 | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|--------------------------|-------------|----------------------------|----------|-------------|--------|-----|-----|
| 施 策 | 462 | 地域のなかで子どもを健全に育成できる環境をつくる | | | | | 部内優先順位 | | |
| 事務事業 | 地域プラザ出張利用者支援事業費 | | | | | 11 | | | |
| 事業概要 | 本所及び八広地域プラザで子どもの預かり事業とは別に、子育て相談等を行うことにより、子育て支援事業等が円滑に利用できるようにする。 | | | | | 主管課・係(担当) | | | |
| | | | | | | 子育て政策課児童館担当 | | | |
| | | | | | | 5608-6195 | | | |
| 施策への 関 連 性 | 子ども及びその保護者が子育て相談等を受けられる環境を整えることにより、地域で子どもが健全に育つことができる。 | | | | | | | | |
| 必要性・ 妥当性 | 区民のニーズ | | | | | | | | |
| | 子育て中の保護者から、子育てに関する相談や助言が受けられるような身近な場所が求められている。 | | | | | | | | |
| | 代替可能性の状況(区が実施する必要性等) | | | | | | | | |
| | 区内の全児童館で同様の取り組みを行っている。 | | | | | | | | |
| 有効性・ 適格性 | 手 段 に 対する指標 (活動指標) | 指 標 | 子育て相談等の実施日数 | | | | 単 位 | 日 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | | 29 | 目標 | | 137 | | | |
| | | | | 実績 | | 137 | | | |
| | | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | | |
| | 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | |
| | 子育て支援事業として、子育て相談を定期的実施していく必要があることから、相談実施日を指標とする。 | | | | | | | | |
| | 目 的 に 対する指標 (成果指標) | 指 標 | 子育て相談件数 | | | | 単 位 | 件 | |
| | | 最終目標値 | 目標年度 | | 基準年(H28) | H29 | H30 | H31 | |
| | | | 29 | 目標 | | 137 | | | |
| | | | | 実績 | | 8 | | | |
| | | | | H32 | H33 | H34 | H35 | H36 | H37 |
| | | | 目標 | | | | | | |
| | 実績 | | | | | | | | |
| 指標の選定理由及び目標値の理由 | | | | | | | | | |
| 子育て相談等の実施が求められていることから、相談件数を指標とする。 | | | | | | | | | |
| 財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円) | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 | | |
| | | 83 | | | | | | | |
| | H35 | H36 | H37 | 〔予算の傾向〕 平成29年度のみの実施である。 | | | | | |

| | | | | | |
|---|---|----------------------|------------|------------|------|
| 1 必要性・妥当性 | | | | | |
| 区民ニーズの有無 | ある | | | | |
| 代替可能性の有無 | ある | | | | |
| 区が実施すべき強い理由があるか | 必須だが裁量余地あり | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 必要性はあるが、同事業を実施している児童館が近くにあることから、そちらで引き続き実施する。 | | | | | |
| 2 有効性・適格性 | | | | | |
| 事業の目的が施策に合致しているか | 合致している | | | | |
| 指標は目標値を満たしているか | 活動指標のみ満たしている | | | | |
| かけたコストに対し十分な成果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | 必要性 妥当性 | 有効性 適格性 | 効率的 経済性 | 評価結果 |
| 必要性はあるが、同事業を実施している児童館が近くにあることから、そちらで引き続き実施する。 | | 1 | 4 | 1 | 1 |
| 3 効率性・経済性 | | 必要性等が失われたため廃止 | | | |
| 目的・対象が類似する事務事業はないか | ある | | | | |
| 実施工程やコストに改善の余地がないか | ある | | | | |
| 地域社会やその他住民への波及効果があるか | ある | | | | |
| 判断理由 | | | | | |
| 必要性はあるが、同事業を実施している児童館が近くにあることから、そちらで引き続き実施する。 | | | | | |
| 中間・最終年度の講評 | 同事業を実施している児童館が近くにあることから、そちらで引き続き実施する。 | | | | |
| 今後の方向性 | 同事業を実施している児童館が近くにあることから、そちらで引き続き実施する。なお、本事業とは別に実施している子どもの預かり事業は今後も継続していく。 | | | | |